

白い小箱 災害用備蓄に



「白い小箱」を搬入する名古屋ライトハウス明和寮の利用者(左端)とあいせい紀年病院の看護師ら。南区曾池町で

南区のあいせい紀年病院

南区曾池町のあいせい紀年病院は、障害者支援施設などが箱詰め作業を担う災害用物資「白い小箱」の備蓄を始めた。箱詰めを行った社会福祉法人名古屋ライトハウス明和寮(港区十一屋一)から十四日、箱が搬入された。

「白い小箱」は、三

内での備蓄は初めて。

あいせい紀年病院は大地震などの際、当直や夜勤の職員が利用するために十三箱を購入。岩田準一・外来看護師長(左)は「各病棟に分散して置く。緊急時にすぐに口にできれば一刻も早く医療活動が進められる」と話した。白い小箱の問い合わせは日本非常食推進機構(059)3228)5345)へ。

(中野祐紀)